

平成 28 年度 大阪市英語力調査（「英検 IBA」）の結果の概要と今後の取組について 大阪市教育委員会

■ 調査内容

学年	英検級レベル	テスト内容		満点スコア
		筆記問題	リスニング問題	
3年	英検 2 級～5 級レベル	35 題	30 題	1100 点
2年	英検準 2 級～5 級レベル	35 題	30 題	1000 点
1年	英検 3 級～5 級レベル	35 題	25 題	800 点

■ 調査結果

【「語い・熟語・文法」「読解」「リスニング」の値は大阪市の分野別平均正答率(%)】

3年	平均スコア(点/1100点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 3 級レベル以上の割合 (%)
	723.9 点	54.0%	56.6%	51.1%	38.9%
2年	平均スコア(点/1000点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 4 級レベル以上の割合 (%)
	650.6 点	64.1%	58.4%	61.8%	61.4%
1年	平均スコア(点/800点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 5 級レベル以上の割合 (%)
	509.2 点	63.7%	50.0%	61.6%	80.6%

■ 結果の概要と今後の取組について

学年	結果の概要と今後の取組について
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・英検 3 級レベル以上の割合が 35%を超え、平成 28 年度大阪市教育振興基本計画に示した目標値を達成した。 ・「語い・熟語・文法」「読解」「リスニング」の 3 分野すべてにおいて、平均正答率が 50%を上回った。「リスニング」については、C-NET と効果的なチームティーチングを取り入れたり、授業内の教員の英語使用をさらに増やしたりするなど、日々の授業の中で、まとまった量の英語を聞く取組を今後も継続して取り入れる必要がある。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・英検 4 級レベル以上の割合が 60%を超えた。 ・「語い・熟語・文法」「リスニング」の 2 分野において平均正答率が 60%を超えた。「読解」については今年度、読解力を高めるために、全中学校に教材を配布した。配布した教材を有効活用し、教科書本文以外の、ある程度まとまった量の英文を読ませる取組を、さらに拡充していく必要がある。また、日々の授業の中で、読解力向上のための活動を継続的に展開する必要がある。
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・英検 5 級レベル以上の割合が 80%を超えた。 ・「語い・熟語・文法」「リスニング」の 2 分野において平均正答率が 60%を超えた。「リスニング」については、C-NET と教員が授業内で多くの英語を使用した成果が伺える。調査の実施時期が 10 月下旬から 11 月初旬であり、1 年の生徒にとって、ある程度まとまった量の英文を読むことに、慣れていない時期であったが、「読解」の平均正答率は 50%を超えた。1 年の読解力を高めるためには、基本的な語いを増やすことが重要である。日々の授業の中で、チャンツや歌、絵本を活用した短時間の繰り返し学習の定着をさらに図り、単語の音・文字・意味をより多くインプットする必要がある。